

要望・意見交換報告書

草政会 遠藤 覚

- 1 日 時 : 令和7年10月2日(木) 13時00分～11時30分
- 2 場 所 : 参議院議員会館 こやり隆史事務所・宮本和宏事務所
- 3 対 応 者 : 参議院議員 こやり隆史議員 参議院議員 宮本和宏議員
- 4 参 加 者 : 瀬川裕海・西田剛・遠藤覚・田中香治
- 5 要望意見交換内容

①滋賀国道事務所の道路事業における新たな整備道路の進捗状況について

②全国都市緑化フェアの招致について

③ケアラー支援法の制定について 他

会派視察報告書

報告者：草津市市議会

草政会：田中 香治

1. 会派視察の概要

(1) 日時

令和7年10月2日（木） 16：30～18：00

(2) 訪問先

埼玉県庁 埼玉県議会

2. 参加者

草政会 瀬川 裕海、西田 剛、遠藤 覚、田中 香治

3. 研修内容

● 『ケアラー条例策定について』

(1) 埼玉県議会 吉良英敏氏 日本ケアラー連盟 大野裕子氏

- ① 埼玉県におけるケアラー支援の取り組みについて
- ② 日本ケアラー連盟との連携経緯・進捗について
- ③ 自治体での条例策定に向けた手順について

4. 研修を終えて（所感）

埼玉県庁ケアラー条例視察研修を終えて

自民党の吉良英敏議員、日本ケアラー連盟の大野さんとの意見交換のため、埼玉県庁を訪問し、滋賀県草津市でのケアラー条例策定に向けた会派視察研修を行いました。条例策定をした当事者の声を直接聞くことで、ケアを行う人への支援体制の確立が今後の社会全般において極めて重要な課題であることを改めて認識しました。

埼玉県は2020年3月に全国初となる「ケアラー支援条例」を制定し、ケアラーの実態把握や支援体制の構築において先進的な役割を果たしておられます。県議会と市町村での予算規模は異なりますが、ヤングケアラーを含むケアラー全般への包括的な支援の枠組みは、草津市での条例策定において重要な参考事例となるものでした。

今回の視察を通じて、草津市での条例策定に向けていくつかの重要なポイントが明確になりました。まず、ケアラーの数、年齢層、抱えている課題を正確に把握するための実態調査の必要性です。次に、福祉、教育、医療、労働などの分野を横断した多機関連携体制の構築が不可欠であることを学びました。そして何より、実際にケアを担っている方々のニーズを丁寧に聞き取り、当事者の声を条例に反映させることの重要性を学びました。

今回の視察で得たことを、草津市で条例策定につながるように、尽力してまいりたいと考えており

ます。



行政視察報告書

草政会 遠藤 覚

- 1 日 時 : 令和7年10月3日(金) 10時00分～11時30分
- 2 場 所 : 埼玉県越谷市役所 埼玉県越谷市越ヶ谷4丁目2番1号
- 3 対 応 者 : 越谷市総合政策部 副部長 野口毅 様
政策課 副課長 黒澤素直 様
主 任 大久保雄平 様
- 4 参 加 者 : 瀬川裕海・西田剛・遠藤覚・田中香治
- 5 視察項目 : 越谷市 Liqlid について

6 視察目的

越谷市では、第5次総合振興計画後期基本計画を策定するにあたり、市民の多様な意見を効率よく収集するためにオンライン市民参加型プラットフォーム「越谷市 Liqlid」を導入しました。このプラットフォームを通じて、市民の意見をどのように集め、行政内部でどう反映させているのか、また、市民とのコミュニケーション方法について詳しく学ぶことを目的とした。特に注目したのは、デジタル技術を活用した参加促進策や、対面懇談会との連携によって市民参加の範囲を広げる方法、そして市民と協力して政策を形成する実際の取り組みである。これらの成果は、他の自治体でも応用できる可能性があり、今後の市民参画や地域計画の策定に役立つと考える。また、参加状況の分析や成果の可視化方法についても理解を深め、プラットフォーム運用の実効性を確認することとした。

7 視察内容

(1)「越谷市 Liqlid」とは

「越谷市 Liqlid」は、越谷市が市民参加を促進するために導入したオンラインプラットフォームで、市民がデジタル上で意見を投稿したり、議論に参加したりできる仕組みを提供したものである。このシステムは、市民の意見を効率的に収集し、自治体の政策形成に反映させることを目的としており、市民が自分の意見や提案を簡単に提出できるだけでなく、意見の公開や参加状況の可視化により、透明性が確保されている。なお、このプラットフォームは、自治体向けのオンライン参加システムを提供する株式会社 Liqitous によって開発・運営されたものである。

(2)「越谷市 Liqid」 導入内容

越谷市第5次総合振興計画後期基本計画策定に際し、従前の懇談会(ワークショップ)と並行して「越谷市 Liqid」を素案づくりに活用。市が発行する広報やアプリ等に掲載し、「越谷市 Liqid」参加者を募集し、133件のアカウント登録があった。投稿には、従前の懇談会に参加が少なかった30代や40代の若い世代の参加が多く、早朝や深夜の投稿もあり、時間や場所をとらわれず幅広い意見を集める手段としての効果があったと十分に考えられる。

8 視察研修を終えて(所感)

草津市においては、各種計画策定時に対して意見聴収する場面を設けているが、より幅広い意見収集することの必要性は否定できないと考える。熊谷市では計画素案策定に際して導入されているが、パブリックコメントと併用して行うなど、計画策定時だけではなく、草津市が進める施策全般に対して当該と同様のオンラインプラットフォームを活用することは、有意義であると考えられる。

